

清流 ニュース

発行所 八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164

平成二十五年度総祈願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
教化必成 教務員増加 報恩御有志目標達成 完納成就
羽村別院 改修 成就 之御願
佛立菩薩増加 助行運動推進
役中後継者養成 法灯相續促進

六月の御総講日

- 一日 十時 御修行日
- 七日 十時 バースデー総講
日序上人報恩
- 十三日 十時 高祖御命日
- 十七日 十時 開導御命日
- 廿五日 十時 門祖御命日
於 清流寺
- 十二日 十時 高祖御速夜
- 十六日 十時 開導御速夜
- 廿四日 十時 門祖御速夜
併日序上人ご祥月
- 三十日 十時 歡尊御命日
於 羽村別院
- 廿五日 御総講後 役中会議
- 三十日 二時 御総講後 教区長会議
参事会

弘通年度後期へ突入

先住日序上人御十七回忌まであと一年

歡尊会も無事に終わり、いよいよ弘通年度も後半に入ります。

今日廿四日は、先住日序上人の祥月ご命日です。

日序上人は、昭和廿二年の十月に八王子へ赴任され、戦後の荒れ野原の中、わずかな信者を中心にご弘通が開始され、朝参詣も五時間を実施され、ご弘通の基盤を築かれました。日序上人は、八王子へ赴任以来、三回も本堂を建て替えられる等、三多摩一円へのお助行に尽力され、創建十周年頃には一千を擁するご信者を教え、昭和廿四年十一月には第二回目の開筵式を挙行し全国から六千名の団参を頂く等、めざましい発展を遂げました。

この日序上人への御恩報じのご奉公は、ご弘通発展以外にはありませんから、本年度の教化達成に邁進しなければなりません。

御十七回忌まであと一年となりました。報恩ご奉公の一環としての記念事業である羽村別院の改修も順調に進んでいます。御有志の目標は二千口ですから、もう一歩も二歩も前進し、功德を積み上げていただきます。

六月八日(土)

乗泉寺当番参詣

第四座 午後一時

本年度の本寺への当番参詣は、八日(土)第四座、午後一時にお参詣させていただきます。

六月朝参詣強調週間

二日～六日

第一連合担当

六月の朝参詣当番連合は、また第一連合から始まります。今月から二回目の朝参詣当番の実施です。

各教区とも一回目を上まわる参詣が出来るようにシツカリ将引いたしましょう。

- 六月二日(日) 元八王子教区
- 三日(月) 八王子東教区
- 四日(火) 八王子西教区
- 五日(水) 八王子南教区
- 六日(木) 八王子北教区

大本山有清寺にて

開導会奉修

宗門総回向も併修

七月十四日(日)大本山有清寺に於て、開導会が奉修されます。その当日は、宗門総回向も併修され、御講有上人をはじめとしてご出座のお教務方により、全国寺院から申し込まれた霊魂のご回向が満堂の参詣者の唱題の声につつまれ総回向が奉修されます。

今月皆さんから申し込まれる「宗門総回向」は懇ろに志し厚く申されます。

すでに総回向の申し込みの袋は配付されていますので、一霊でも多く申し込み、宗門三大奉納金の功德を積みましょう。

先住日序上人ご祥月法要

六月廿四日 羽村別院にて

今月は、先住日序上人のご祥月です。

権大僧正日序上人御十七回忌まで一年となりました。

例年のように、羽村別院に於て、門祖日隆聖人御速夜総講に併せて、先住権大僧正日序上

をさせて頂くことが何よりの幸せな事であり、この御法の中に安住する生活が、お経文で説かれてある現世安穩後生善処ということ、世間のいろいろな事があっても恐れずに、とりあわずに、ヒタスラ口唱信行につとめなさいというのであります。苦であるとも楽であろうともトニカク日常信行であるお題目口唱さえシツカリさせて頂いていれば何も心配はいらない事であるというのであります。

いよいよ強盛の信力をいたし給へ。

(四) 金吾殿御返事(一四四二) この強盛の信力というのは、心をこめて平常の口唱信行に励む事に外なりません。

開導聖人は 精出して専ら口唱せよ。声も惜しまず唱へ唱へて死ぬまで唱へ続けければ浄土参拝疑いなし。これ経力也。口唱の力也。(三二一八九)

と御指南下されてあります。口唱を怠らず、自受法樂の日々をおくるようにする事が肝心です。



本月の御妙判

自受法樂

法華経を持ち奉るより外に遊樂はなし。現世安穩後生善処とは是なり。ただ世間の留難来るともとりあへ給ふべからず。賢人聖人も此事はのがれず。ただ女房と酒うちのみて南〇経となへ給へ。苦をば苦とさとり樂をば樂とひらき、苦樂ともに思合わせて南

〇経とうちとなへいさせ給へ。これあに自受法樂にあらざや。いよいよ強盛の信力をいたし給へ。

(四) 金吾殿御返事(一四四二) 徳川時代の学者が述べています。とにかく何が一番嬉しうかという問いに対して「人間に生まれたこと」と答えて

ていますが、この自覚があればおのづから人間尊重の心があるという事になります。妙講一座の随喜段のところ、「ああ、ありがたや、まれに人身を得、たまたま仏法にあへり」と言上しますが、「人間に生まれることは難しいとい

う、その人間に生まれ合わせたい」といふ喜びと、末法においてこれしかないという唯一の成仏の法である法華経にお出値いたしたという喜びを示したもので、これは、千万劫

難遇と云われてあるように、恐らく値う事の難しい成仏の法のご信心をさせて頂いて、まことに有り難い事だといふのであります。

夫レ人身ヲ受クル事ハ希也。已ニ希ナル人身ヲ受ケタリ、又値ヒ難キハ佛法、是レモ法華経ノ題目ニ値ヒタテマツル。結句、題目ノ行者トナレリ。(寂日房御書一八七二)

と御妙判下されてあります。ですから、これ以上の果報はないわけで、日々御奉公